

区分	地域	5年後の見込み	産地の計画の概要
春 キ ャ ベ ツ	北勢	作付面積：36.8ha→36.8ha 出荷数量：739 t→739 t うち、JA出荷数量 502 t→502 t	○気候変動対策、連作障害対策の技術の導入を推進し、安定生産を図る。 ○土壌病害診断により、根こぶ病の発病リスクを診断し、その程度に応じた防除対策を取る。 ○異常気象対策、連作障害対策や機械化・省力化に取り組むことで安定生産を図る。
	鈴鹿	作付面積：16.0ha→21.0ha 出荷数量：678 t→652 t うち、JA出荷数量 619 t→652 t	○機械化により作業の省力化を図り大規模化を進め、面積拡大を図る。 ○新規就農や農地の集積などについては、県・市・農業協同組合と連携し、助言指導を行う。 ○安定生産に向けた栽培技術の確立のため、栽培試験・品種検討・先進地視察等を充実させる。
	中勢	作付面積：72.4ha→55.0ha 出荷数量：1,483 t→2,200 t うち、JA出荷数量 1,040 t→1,600 t	○農家の規模拡大や就農支援の充実を図り、作付面積を維持する。 ○土づくりや化学肥料の削減、化学農薬の削減に取り組むことで環境に配慮した栽培体系への転換を図るとともに、高付加価値化を目指す。 ○以前は生食用出荷のみだったが、加工・業務用への出荷が増えている。
冬 キ ャ ベ ツ	北勢	作付面積：44.0ha→44.0ha 出荷数量：677 t→677 t うち、JA出荷数量 453 t→453 t	○気候変動対策、連作障害対策の技術の導入を推進し、安定生産を図る。 ○土壌病害診断により、根こぶ病の発病リスクを診断し、その程度に応じた防除対策を取る。 ○異常気象対策、連作障害対策や機械化・省力化に取り組むことで安定生産を図る。
	鈴鹿	作付面積：19.0ha→17.0ha 出荷数量：735 t→390 t うち、JA出荷数量 611 t→390 t	○機械化により作業の省力化を図り大規模化を進め、面積拡大を図る。 ○新規就農や農地の集積などについては、県・市・農業協同組合と連携し、助言指導を行う。 ○安定生産に向けた栽培技術の確立のため、栽培試験・品種検討・先進地視察等を充実させる。
	中勢	作付面積：99.1ha→96.0ha 出荷数量：1,812 t→3,435 t うち、JA出荷数量 1,320 t→2,455 t	○農家の規模拡大や就農支援の充実を図り、作付面積を維持する。 ○土づくりや化学肥料の削減、化学農薬の削減に取り組むことで環境に配慮した栽培体系への転換を図るとともに、高付加価値化を目指す。 ○以前は生食用出荷のみだったが、加工・業務用への出荷が増えている。
冬 春 ト マ ト	北勢	作付面積：37.9ha→37.9ha 出荷数量：4,071 t→4,071 t うち、JA出荷数量 3,024 t→3,024 t	○実証圃の設置及び現地研修会、果実評価会、成績検討会等を開催し、品質の高位平準化を図る。 ○ハウス出入口に防虫ネットの設置や作終わりの蒸しこみを行うなど、化学合成農薬によらないコナジラミ類対策を推進する。 ○系統外生産者の選果場利用も含め、共販率の維持・向上を目指す。
秋 冬 は く さ い	三重四日市	作付面積：33.3ha→33.3ha 出荷数量：1,352 t→1,352 t うち、JA出荷数量 1,128 t→1,128 t	○稲麦大豆等との複合経営農家の参入を進め、栽培面積の減少に歯止めをかける。 ○省力化技術の推進により生産規模の拡大を促すとともに、反収の向上や生産コストの低減を進め、生産農家の所得拡大に努める。 ○減農薬・減化学肥料栽培、良食味品種の導入などを進め、高付加価値化を目指す。
	鈴鹿	作付面積：28.0ha→28.0ha 出荷数量：1,070 t→1,200 t うち、JA出荷数量 802 t→1,000 t	○茶及び花木農家への作付け推進、加工業務向けの契約取引を進め、面積の減少に歯止めをかけている。 ○加工業務用においては、鉄コンテナの導入による出荷作業の省力化により、農家の経営安定を目指す。 ○品種の選定や栽培方法の改善により出荷率を向上させ、出荷数量の増加に取り組む。
ば れ い し よ	四日市	作付面積：24.0ha→24.0ha 出荷数量：148 t→196 t うち、JA出荷数量 101 t→100 t	○連作障害対策を進めるとともに、かぶ等との複合経営を進め、面積の減少に歯止めをかけている。 ○省力化技術の推進により生産規模の拡大を促すとともに、反収の向上や生産コストの低減を進め、生産農家の所得拡大に努める。 ○品種の選定や栽培方法の改善により反収を向上させ、出荷数量の増加に取り組む。
春 ね ぎ	伊勢	作付面積：22.3ha→13.6ha 出荷数量：260 t→193 t うち、JA出荷数量 202 t→147 t	○平成30年からトンネル栽培を推進し、良質な青ねぎの周年出荷に取り組んでいる。 ○溝堀機での排水対策、営農管理システムによる出荷数量予測の精度向上、病害の被害防止のための土壌消毒の実施等に取り組む。 ○パッケージングセンターの活用を進め、共販率と出荷数量の向上に努める。
夏 ね ぎ	伊勢	作付面積：22.5ha→17.3ha 出荷数量：181 t→187 t うち、JA出荷数量 140 t→100 t	○平成30年からトンネル栽培を推進し、良質な青ねぎの周年出荷に取り組んでいる。 ○溝堀機での排水対策、営農管理システムによる出荷数量予測の精度向上、病害の被害防止のための土壌消毒の実施等に取り組む。 ○パッケージングセンターの活用を進め、共販率と出荷数量の向上に努める。

秋 冬 ね ぎ	鈴鹿	作付面積：17.0ha→18.0ha 出荷数量：470 t →499 t うち、JA出荷数量 400 t →420 t	野菜生産出荷近代化計画策定中（指定野菜産地告示時期：令和5年5月8日）
	伊勢	作付面積：42.7ha→20.52ha 出荷数量：454 t →399 t うち、JA出荷数量 309 t →231 t	○平成30年からトンネル栽培を推進し、良質な青ねぎの周年出荷に取り組んでいる。 ○溝堀機での排水対策、営農管理システムによる出荷数量予測の精度向上、病害の被害防止のための土壌消毒の実施等に取り組む。 ○パッケージングセンターの活用を進め、共販率と出荷数量の向上に努める。